

議長定例記者会見 会見録

日時：平成30年2月5日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

第3回三重県議会「議員勉強会」の開催について

2 質疑項目

第3回三重県議会「議員勉強会」の開催について
平成30年度当初予算について

1 発表事項

第3回三重県議会「議員勉強会」の開催について

(議長)おはようございます。ただ今から、2月の議長定例記者会見を開催いたします。本日の発表事項は、第3回三重県議会「議員勉強会」の開催についてであります。お手元に配付しました資料をご覧ください。まず、この勉強会の目的であります。平成33年の国体等の開催を控え、これらの成功に向けた様々な取り組みが行われています。しかしながら、これらの取り組みを一過性に終わらせず、持続的な地域活性化に繋げていくためには、スポーツを地域の文化として根付かせていくことが必要であります。このような状況を踏まえ、サッカーJリーグのアルビレックス新潟を日本有数の地域密着型のスポーツクラブに育て上げた講師から、そのご経験などをお聞きし、スポーツを通じた地域活性化のために県議会として何ができるかを考えていく上での一助とすることを目的としております。日時・場所は、3月5日 月曜日、13時30分からここ全員協議会室です。講師は、一般社団法人日本女子サッカーリーグ専務理事の田村貢さん、演題は、「地域が育てたスポーツクラブ アルビレックス新潟」であります。この議員勉強会は、どなたでも傍聴可能ですので、ご関心をお持ちの方は、ぜひ三重県議会へお越しいただきたいと思っております。発表は以上です。

2 質疑応答

第3回三重県議会「議員勉強会」の開催について

(質問)田村貢さんを選ばれた理由を教えてください。

(議長)一つは先程申し上げましたとおり、国体を一過性に終わらせないため

にはどうしたらいいか。これはサミットなど大きなイベントがあった時もそうですけど、スポーツの時にはスポーツの手法もあろうかと思imasるので、そういった意味でアルビレックス新潟の地域密着型で育て上げてきたその手法、それから経過などを聞かせていただき、参考にしていきたいと。人選するにあたっては、この方は三重県スポーツ推進審議会の委員もさせていただいておりますので、三重県にとっても、そこに書いてあると思imasですけど、非常に身近で適任でありお声がけがしやすかったということでもあります。

(質問) アルビレックス新潟が地域密着型っていうのは、どんな取り組みをされているのでしょうか。

(議長) 本人から聞いてください。

(質問) 国体等を一過性に終わらせないってことが、ちょっとよく意味が分からないんですけど、要するにみんながもっとスポーツをするようになればいいとかそういうことですか。

(議長) これは僕の拙い記憶なんですけど、昭和50年の国体で津市がバスケットボールの開催地だったんですよ。そのあとね、ミニバスケットが津市で随分流行ったんです。それが今でも継続されているというふうに聞いていますので、そういった意味では、開催地で一つの刺激を与えて、そしてそこに指導者、選手などが定着することによって、バスケットボールを例とするなら、子どもたちに広めていくというようなことが私自身の記憶としてはありますので、そういうところで、単に国体があった、アスリートのプレーを見てよかったね、というのではなく、それが子どもたちに刺激を与えて、やってみたいなというふうな形で、層が広まり深まりしていけばいいなと思imasですけども、その手法がどういったものかいいのかは、私自身もなかなかわかりませんので、この田村貢さんの経験などを聞かせていただけたら、参考になるんじゃないかなというふうに思っています。

(質問) もう1点。県のサッカー協会なんかは三重県にJリーグのチームを作ろうって活動されていますけど、そのあたりと今回この方を呼ばれたことと何か関係はあるのですか。

(議長) サッカー協会さんには直接ご案内はしてないようです。でも、せっかくだから、こういうのをやりますとお声掛けをしたら？

(事務局) そういたします。

(議長) スポーツ推進局を通じてご案内するようにします。

(質問) 今、Jリーグの話がありましたけど、議長自身はそういう意識はあるんですか。鈴木知事はよくここ最近ヴィアティンの活躍などを受けて、Jクラブ誕生に関する発言が多くあると思うのですが、議長のお考えはいかがでしょうか。

(議長) ちょうど平成7年、私が初当選した時に鈴鹿スポーツガーデンが竣工しているんですよ。2月にこけら落としのサッカーがありました。あのときにはあれでJリーグが三重県にも(できると期待したが) ヴィアティンはなかった時代ですけど、JリーグもしくはJ2ぐらいという期待があって、ちょっと残念ながらスポーツガーデンが規格に合わず忸怩たる思いをした経験を持っている中ですから、ヴィアティンに頑張ってもらって、三重県にJリーグのチームができることは私としても期待するところですね。私自身は野球少年なんですけど。

(質問) そうするとサッカーを選択されているのは、そういうことを意識されてというわけではない?

(議長) 違います。あくまでも地域にいかにもスポーツを根ざして一体化させていくかということの一つの手法を、サッカーを通じて頑張ってもらった田村さんにお話を聞くという意味で、サッカーに限定したわけではございません。

平成30年度当初予算について

(質問) 県予算なんですけど、28年度決算で経常収支比率が99.8%という数字を伺ったりして、相当今年は特に財政的に厳しいようで、各部局をまわっていてもやりたいことがやれないとか、一方で県債はどんどん積みあがって公債費もどんどん増えているような状況なんですけど、新年度予算の審議にあたってですね、こういった県の財政状況、それから県の課題もあると思うんですけど、どのようなふうにも臨まれるつもりですか。

(議長) 6968億円一般会計での発表がありました。久々に7000億円を切る中で先程お話がありましたように、当然公債費だとか社会保障費の増という厳しい中で、そういった中で大変厳しい財政事情での予算査定だったんだろうなというのは、当然のことながら想像がつかます。ただ、先程お話をさせてい

ただいたように、33年の国体もあります。それに対する準備をしていかなければなりません。防災・減災対策も人口減少対策も当然のことながら待ったなしの課題でございますので、厳しい財政事情の中でもありますけれども、ある面では適切な執行をしていただくことをまず期待したいと思っています。ただ、金額は確かに新聞発表でトータル金額は聞かせていただきましたけれども、日程でいきますと14日に全員協議会が開かれてその時に少し具体的な内容を聞かせていただく。そしてそれに対する質問は19日20日の議案聴取会で、それぞれの議員の思いもありますし、当然2月定例会議での一般質問・代表質問の中で、もう少し議会としてのスタンスまた県民の代表としての県議会の提言・質問があるかと思えます。

(以 上) 10時40分 終了